

## 同窓会50

## 祝・現在進行形！

青山学院大学コミュニティ人間科学部准教授  
子ども学科在籍 西山 利佳



短大同窓会設立50周年おめでとうございます。

私は、2016年度に子ども学科に着任し、短い期間となりましたが閉学に到る大変重要な

日々を学科主任として関わらせていただきました。最後の専攻科生と共に青短を卒業し、青山学院大学コミュニティ人間科学部に移籍しておりますが、河見誠先生、趙慶姫先生をはじめとする、卒業生への聞き取りプロジェクト（代表：小林瑞乃先生）メンバーの一人として、各地の同窓生のみなさまの貴重な人生を拝聴する機会を得、同窓会の意義深さをしみじみ実感しております。

思えば、在学期間は長い人生の中のほんの2年から4年程度ですが、同窓会活動に集うみなさまの青短への思いはなんと深いことでしょう。

そこで思い出した言葉があります。「伝統は『いま』が選り続けて伝統となる」――結構前に、南米ベネズエラの民族舞踊や祭りに関する講演を聴いたことですが、講師のお名前も忘れてしまったのですが、この一言に深く納得し胸に刻んで来ました。ある祭りを、今年も行おうと『いま』の人が『いま』選ぶ……そうやって選ばれ続けたものが残り伝統になるということです。

同窓生のみなさまと接するに付け、同窓会は在学中の「過去」によるつながりではなく、現在進行形の、みなさまが『いま』選ぶつながりなのだと感じます。

コロナ禍の下、閉学の現実の中巣立っていった世代も、さまざまな分かれ道で根っこを見失いそうになった時、帰ってくる場所として同窓会と出合い直すのではないかと思います。

短大同窓会がこれからも、朗らかにのびやかに活動を重ねて行かれますことを心よりお祈りいたします。

## かけがえのない居場所

青山学院大学コミュニティ人間科学部教授  
児童教育学科・子ども学科在籍 菅野 幸恵



50周年おめでとうございます。私は2003年に児童教育学科に着任しました。当時驚いたことのひとつに、活発な同窓会活動がありました。卒業後も共に

学び続けようとする姿勢や社会への奉仕の思いを強く感じました。菅沼（清水）眞砂子先生は、青短で教えるようになって初めて「愛校心」というものを知ったと仰っていました。同窓会活動の原動力となっているのは、母校への愛と誇りなのではないかと思っています。そして、それをもたらしたのは当時の先生方の熱いエネルギーもあるでしょう。教授内容のみならず、学生たちをひとりの大人として扱い、懐深く受け止め、必要な時には叱咤激励するという、実に人間的な交わりが母校への思いを育んだのだと思います。学生の近くでその学びを見守る副手という存在、職員含め短大内の雰囲気もアットホームでありながら、自由で開かれていて、お互いを尊重するものだったことも大きいでしょう。

閉学前の数年間は、学生部長という役を預かり、さまざまな行事に関わりました。なかでもシオン寮の閉寮前に行ったホームカミングデーは忘れられません。遠方から来てくださった卒業生のみなさまが寮のなかを、当時の仲間と思い出を語り合い、時に涙しながらめぐる姿に、親元を離れひとりで東京にいられた当時のみなさまにとって、シオン寮がただだけかけがえのない居場所（姉妹のような寮生、母のような寮監のいるホーム）となっていたのかを感じさせられました。

卒業生のみなさまがこれからも「地の塩、世の光」として居続けてくださることが、青山学院女子短期大学の生きた証になります。これからのみなさまの活躍をお祈り申し上げます。

## 短大同窓会設立50周年によせて

元青山学院女子短期大学事務部長 五十嵐 遣



青山学院女子短期大学同窓会が、神様の御守りのうちに設立50周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。はからずも最後の事務部長として、女子短大の閉学に関わる中で、短大同窓会の役員の皆さまが当初より積極的に協力してくださったことは、今も忘れることができません。現在も時折、閉学を予定された他短大等から、閉学に至る業務についてのヒアリングを受けることがあります。その都度、私から必ずお話ししていることは、閉学業務の円滑な遂行は、短大同窓会の多大な協力無くしては成し得なかったということです。皆さまのご理解、ご協力に改めて感謝申し上げます。

また、短大同窓会より、女子短大記念碑建立の後援として、記念碑の制作費用をご負担いただいたこと、短大の女子教育の伝統と未来を引き継ぐ大学附置スクーナーメーカー記念ジェンダー研究センターの活動のために1千万円のご寄付をいただいたことも、感謝に堪えないことでした。記憶を継承するモニュメント、学院での女子教育の発展のための資金は、いずれも学院の大切な財産となっており、私が高3の頃（1980年）、成績優秀な女性が、青山の短大と4大に合格して、短大に進学するということは決して珍しくない選択でした。

時代は移り、女子短大はその役目を終え、皆さまの母校はその歴史に幕を下ろしましたが、設立50周年を迎えられた短大同窓会のこれからの歩みの上に、人知では測り知ることのできない神様の平安とお導きが豊かにありますようにお祈り申し上げます。